

情報通信技術委員会 (TTC) 平成28年度「功労賞」受賞、「感謝状」受贈

平成28年6月21日に開催された情報通信技術委員会 (TTC: The Telecommunication Technology Committee) による情報通信技術賞・功労賞表彰式、感謝状贈呈式において、ネットワーク開発部の笹部 晃秀氏[†]が「IMS網間相互接続を実現するENUM/DNSインタフェース標準化活動にかかわる功績」により功労賞を受賞し、ネットワーク開発部の岡川 隆俊氏が「5Gモバイル推進に向けた技術調査及び戦略分析活動にかかわる功績」による感謝状を、ネットワーク開発部の榮 浩三氏、輿水 敬氏、巳之口 淳氏ほかから構成される43名のメンバを代表して受贈しました。

TTCの活動は、情報通信ネットワークに関わる標準の作成とその普及を図ることを目的としており、その目的に沿う事業の遂行に多大な貢献をした者に対して毎年表彰が行われています。本年度は、情報通信技術賞総務大臣表彰 (2名)、情報通信技術賞TTC会長表彰 (4名)、功労賞 (18名)、感謝状 (43名) が授与されました。功労賞は、情報通信技術の分野において、TTCの活動を通し相当の期間、貢献が認められた者、特に、情報通信技術標準作成や国内標準の維持などに積極的に参画し、著しい功績を挙げた者に対し、贈られる賞です。また、感謝状は、TTCの組織の運営を支援し、これに特に寄与した者に対し、贈られる賞です。

笹部氏は、TTCの信号制御専門委員として平成24年よりIMS (IP Multimedia Subsystem) 事業者間相互接続の標準化活動に参加。今後導入が想定されるIMS事業者間相互接続の番号解決方式であるENUM (E.164 Number Mapping)^{*1}/DNS (Domain Name System)^{*2}の実用化に向けた標準化活動において、移動網における条件確認のため、GSMA (Global System for Mobile Communications Association) など他の組織との情報交換にも取り組み、積極的に仕様の明確化に貢献したことが認められ今回の功労賞受賞となりました。

また、岡川氏、榮氏、輿水氏、巳之口氏は、平成26

年に発足した「将来のモバイルネットワークに関する検討会」において、国内外の研究動向、検討動向、および、日本独自のモバイル通信ビジネスの観点から、将来のモバイルネットワークの実現に必要な技術課題を抽出し、国内外の研究機関、標準化団体で検討されている要素技術との関係を整理することで、今後の2020年以降の将来モバイルネットワークの方向性に関しての考察をまとめました。また、主に標準化活動の観点から課題の優先度付けなどの分析をし、さらなる無線技術の発展にとどまらず、本格的なIoT (Internet of Things) や新たなユースケースを可能とする近い将来のモバイルネットワークの標準化に向けた、コアネットワーク、MBH (Mobile BackHaul)^{*3}/MFH (Mobile FrontHaul)^{*4}、網管理に関する技術調査および戦略分析を行った貢献が認められ、今回の感謝状の受贈となりました。

† 現在、企画調整室

- *1 **ENUM**：電話番号からネットワーク上で使うアドレス情報を検索する仕組み。ENUMにて取得されるアドレス情報はドメイン名とホスト名の組合せで表現される。
- *2 **DNS**：インターネット上でドメイン名やホスト名と、IPアドレスとの対応関係を管理するシステム。IMS事業者間相互接続では、ENUMで取得したアドレス情報から、DNSを利用して信号送信先のIPアドレスを特定する。
- *3 **MBH**：基地局の親局とコアネットワークを結ぶ回線。
- *4 **MFH**：光張出し基地局の子局と親局を結ぶ回線。

